

# 青年の参加を促進する教育的アプローチ — 「『子どもが心配』チェックシート」の活用を通して —

## A Collaborative Parent Education Program for Young People: The Child Care Check Sheet Manual Model (Okayama Version)

(2014年3月31日受理)

福 知栄子      梅野 潤子\*      薬師寺 真\*\*      三宅 尚美\*\*\*  
Chieko Fuku      Junko Umeno      Makoto Yakushiji      Naomi Miyake

**Key words** : 青年の参加, 当事者参加, 養育に関する学習, 子どもの育ちのニーズ, 「『子どもが心配』チェックシート」

### 要 旨

本稿では、岡山県内の保育士養成課程において実践された、当事者が参加した養育に関する教育実践事例を検討し、受講生への学習効果と実践の意義、今後の課題を明らかにすることを目的とする。本事例においては、子どものニーズを満たす養育について親が支援者とともに振り返るためツールとして開発された「『子どもが心配』チェックシート」(パンフレット版)を、教材として活用する。本教育実践を行った大学教師の授業ノート、配布資料、受講生のレポートをもとに事例を作成し、①教育実践の概要、②受講生のレポート結果の2点に整理し、検討した。その結果、①当事者とともに進める学習の効果、②学習を通してもたらされた受講生の前向きな変化を捉えることができた。さらに、本事例検討を通して、児童福祉政策・実践過程への青年の参加の重要性が明らかとなった。今後の課題としては、政策における青年の意見のフィードバックと、教育における青年へのフィードバックが挙げられる。

### はじめに

子どもの育ちのニーズ<sup>1</sup>を満たす児童福祉専門職にとって、養育に関する理解は必須である。例えば、保育士養成課程においては、「保育相談支援」や「社会的養護」などの科目において、学生たちが養育について学ぶ機会を設定している。しかしながら、実際のところ、「養育とは何か」について、児童福祉専門職を目指す学生に具体的に伝えることは、容易ではないと思われる。

その理由としては、第一に、養育という営みの特質が挙げられる。養育という行為そのものは、複雑困難なプロセスであるとともに、きわめて日常的な営みである<sup>2</sup>。そのため、客観的に養育を整理した上で、具体的行為と結びつけて理解することは、すべての学習者にとって簡単なことではないといえる。第二に、社会の変化に伴う青年期の生活経験の変化である。社会の在り方が変化す

る中で、現代の青年の生活経験も変化していると捉えるならば、青年たちは、現在の成人期以降の人々は異なる児童期を送り、異なる生活経験を有していると考えられる。学びの主体である青年たちの育ちや生活経験について、教育者は十分理解した上で、養育に関する教育を行う必要があると思われる<sup>3</sup>。第三に、養育に関する研究成果が、それを必要とする人に十分に伝わっていないという懸念が挙げられる。子どもの発達研究においては、様々な事実が明らかとなっている一方で、養育に関する悩みを抱える親たちの存在も伝えられている。養育に関する考え方や知識、方法が親及び青年に「感動して受け入れられ、理解して応用される知識<sup>4</sup>」として確実に届けられることが求められる。

以上のような困難性を踏まえ、学生たちが一人の青年として自立した人生を切り拓き、子どものニーズを満たす児童福祉専門職としての力を発達させることを、筆者

\*徳山大学 福祉情報学部

\*\*岡山県倉敷児童相談所

\*\*\*岡山県保健福祉部子ども未来課

らは目指している。そこで、社会福祉において鍵概念である「当事者参加」を踏まえ、教育の当事者である学生と、養育の当事者である親を巻き込んだ養育に関する教育プログラムを開発・実施したので、報告する。

## 1. 研 究 目 的

本稿では、青年の参加を促進する教育的アプローチの一実践として、保育士養成課程の大学生への養育に関する教育実践事例を取り上げ、検討することを目的とする。教育実践の概要と受講生からのレポート結果を整理し、青年期の人々の参加促進における本実践の意義を明らかにし、今後の課題について考察する。

## 2. 研 究 方 法

研究方法としては、事例研究の手法を用い、①教育実践の概要、②受講生からのレポート結果の二点に整理し、考察を行うこととする。①教育実践の概要については、担当教師の授業ノートと授業時配布資料をもとに整理する。②受講生からのレポート結果については、A、B両大学(いずれも4年制)の保育士養成課程の2年生、計85名から提出されたレポートをもとに整理する。なお、個人情報保護に留意し、データは個人が特定できないように加工・記述するとともに、レポート等資料は著者らにおいて厳重に保管した。

本事例においては、学習教材として、岡山県において

開発された『子どもが心配』チェックシート(パンフレット版)<sup>5)</sup>(以下、「チェックシート」と表記する。)を活用する。その理由は、21世紀の児童福祉の基盤である子どもの権利の考え方を具現化したツールであり、子どもの育ちのニーズを満たすことを中心に据え、養育について具体的に考察することができるように作成されているからである。こうした理由から、新しい時代を生きる青年への教育に相応しい教材になり得ると判断し、教育実践において適用した。

## 3. 研 究 結 果

### (1) 教育実践の概要

保育士養成課程の大学生に対する教育実践の概要を、表1に示す。対象は、ともに保育士養成課程を有する岡山県内の4年制大学である、A大学、B大学の2校である。A大学においては、2012年度の「保育相談支援」の授業時に、B大学においては2013年度の「社会的養護」の授業時に実施した。受講生はともに2年生であり、受講生数は各70名、15名である。両者とも、児童福祉を専門分野とする同一の大学教師1名が、授業担当者として本実践に取り組んだ。

教育実践の手続きは、次の3段階において行われた。第一段階においては、「チェックシート」の目的、記載内容、使い方についての解説を担当教師が行った。第二に段階においては、「チェックシート」を用いた課題の進め方について、担当教師が説明した。第三段階におい

表1 保育士養成課程における養育に関する教育実践の概要

実施時期	2012年11月	2013年9月
科 目 名	保育相談支援*	社会的養護*
受 講 生	A大学2年生 70名	B大学2年生 15名
担当教師	1名(専門分野:児童福祉)	
手 続 き	①「チェックシート」の目的、記載内容、使い方についての解説を担当教師が行う。 ②「チェックシート」を用いた課題の進め方について担当教師が説明する。 ③上記2点を踏まえ、受講生が授業外時間に各自で課題に取り組み、結果をレポートにまとめて提出する。 — 提出期限までは3週間	
資 料	・パワーポイント資料…「チェックシート」の目的や内容、使い方を提示したもの ・「チェックシート」(図1～図3)…各受講生に1冊ずつ配布 ・課題の進め方を記載した配布資料(表2)	

では、上記2点を踏まえ、受講生が授業外時間に各自で課題に取り組み、結果をレポートにまとめて担当教師へ提出した。なお、第一段階、第二段階の活動には、合わせて90分間を要し、第三段階の課題に受講生が取り組むために与えられた期間は3週間であった。

教育実践の手続きの第一段階と第二段階において使用した受講生への配布資料は、「チェックシート」と、課題の進め方を記載した配布資料である。これら配布資料及びパワーポイント資料を用いて、受講生に対して担当教師が行った解説の内容を、以下に要約する。

「チェックシート」は、乳児から中学生までの子どもとその親との関わり合いを振り返ることで、子どもの育ちのニーズの満たされ方が把握できるアセスメントツールの一つである。シートでは、子どもの育ちのニーズを「基本的生活」「安心・安全」「愛情」「子どもの尊厳」の4つのカテゴリにまとめ、これら4つのカテゴリごとに

整理された質問に答えれば、ニーズの満たされ方が確認できるようにデザインされている(図1)。「チェックシート」の使い方は、大きく分けて2段階ある。まず、前述した4つの子どものニーズの各カテゴリに整理された複数の質問に5件法で答え、結果を一次チェック表に記入する。さらに、一次チェック表に記入した結果を二次チェック表に転記し、カテゴリごとのニーズの満たされ方を確認するというものである(図2)。

子どものニーズのカテゴリごとの質問項目を見ると、子どものニーズの具体的な満たし方が記載されている。例えば、カテゴリ「基本的生活」のうち「食事」の項目を見てみると、「栄養バランスや食材に気を使っていますか」「食事の量はどうか」「育ちに合った食事をつくっていますか」「食育を実践していますか」という質問が設けられている(図3)。

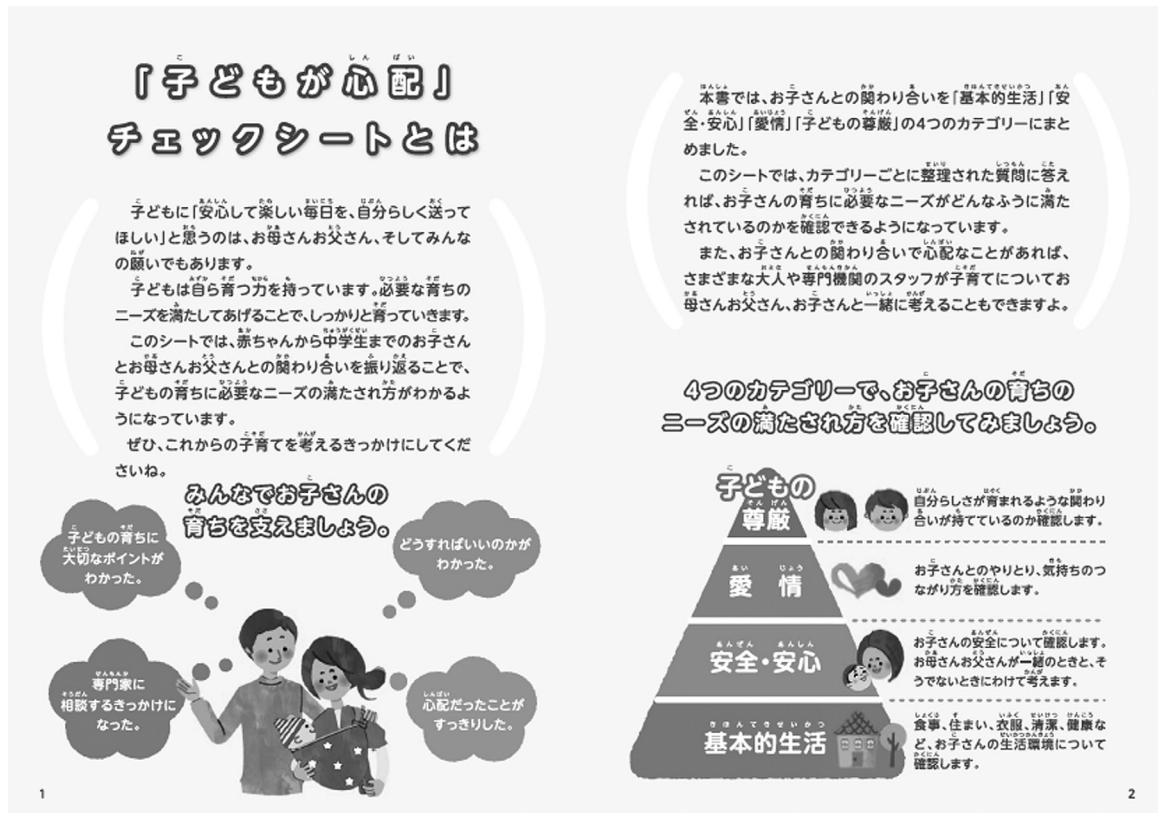


図1 「子どもが心配チェックシートとは」(「チェックシート」より一部抜粋)

## 「子どもが心配」 チェックシートの使い方

### ステップ1

17ページにある「一次チェック表」を開きます。

### ステップ2

5ページから16ページにある質問を讀んで、A～Eの中で当てはまるものを選びましょう。

### ステップ3

16ページの質問まで答え終わったら、項目ごとに一次チェックを行いましょう。  
※チェックの方法は、4ページの「チェックのきまり」をご覧くださいね。

### ステップ4

17ページを山折にして、20ページの「二次チェック表」と折り合わせにしましょう。

### ステップ5

17ページのチェック結果を、20ページ「二次チェック表」の一次チェック欄に転記したあと、4つのカテゴリーごとに二次チェックをします。  
※チェックの方法は、下記の「チェックのきまり」をご覧くださいね。

### 最後に

4つのカテゴリーごとのチェック結果をもとに、19ページの「子育てひと言アドバイス」をご覧くださいね。

### チェックのきまり

(1) 記入したアルファベットが、すべてAかBの場合は、チェック欄にはAとBの数が多い方を記入します。※(1)  
 (2) AとBの数と同じの場合は、Bを記入します。※(2)  
 (3) 1つでもC以下がある場合は、たとえABがあったとしても、C以下のうち、E・D・Cの優先順位でチェック欄に書き入れます。※(3)

① すべてAかBの場合

B
B
A
B

→ B

② AとBの数  
同じの場合

B
B
A
A

→ B

③ 1つでも  
C以下がある場合

B
A
D
C

→ D

図2 「子どもが心配チェックシートの使い方」(「チェックシート」より一部抜粋)

### 基本的生活

## 食 事

**Q.1 栄養バランスや食材に気を配っていますか。**  
 ①ここにポイント お子さんの育ちに適した栄養バランスや、食材の安全性に気を配っていますか。数日分の食事についてチェックしてみましょう。

A	B	C	D	E
しっかり気を配っています。	気を配っています。	気を配れるときとそうでないときがあります。	あまり気を配っていません。チャレンジしてみますが続きません。	特に意識していません。

**Q.2 食事の量ははどうですか。**  
 ①ここにポイント お子さんにも、毎日の食事についてどう思っているか聞いてみましょう。

A	B	C	D	E
いつも十分足りています。	足りています。	「足りない」と言うことがあります。	「足りない」と言うことが多いです。	いつも「足りない」と言います。

**Q.3 育ちに応じた食事をつくっていますか。**  
 ①ここにポイント 子ども向けの味づけ、調理の工夫、盛りつけになっていますか。

A	B	C	D	E
いつもつくっています。	なるべくつくるようにしています。	ときどきつくっています。	つくっていません。おとなが中心です。	食事をつくるのがほとんどありません。

**Q.4 食育を実践していますか。**  
 ①ここにポイント 「食育」とは、「健康にいい食べ物を選ぶ力」「マナーよく食べる力」「自然環境や食料問題について考える力」を育む取り組みのことです。

A	B	C	D	E
しっかり考え、実践しています。	実践しています。	ときどき実践しています。	実践できていません。	関心がありません。

### 基本的生活

## 住 ま い

**Q.5 住まいは、安全に配慮していますか。**  
 ①ここにポイント お子さんのふだんの行動を観察して、家の中の危険なところを見つけましょう。

A	B	C	D	E
十分、配慮しています。	配慮しています。	なるべく配慮するようにしています。	危険なところはありますが、やろうと思えば改善できます。	危険なところはありませんが、自分ではどうすることもできません。

**Q.6 育ちや希望にそった部屋になっていますか。**  
 また、掃除は行き届いていますか。  
 ①ここにポイント お子さんが自分でおもちゃや本を片付けることができるよう工夫していますか。

A	B	C	D	E
なっています。掃除も大丈夫です。	十分ではありませんが工夫しています。掃除は大丈夫です。	なっていない。掃除はするようにしています。	なっていない。掃除も十分できていません。	なっていない。掃除をすることもむずかしいです。

**Q.7 住まいには、快適に暮らすための設備がそろっていますか。**  
 ①ここにポイント 快適に暮らすための設備とは、お風呂、エアコン、寝具、学習机、静かに学習に取り組むことができる部屋などのことです。

A	B	C	D	E
すべてそろっています。	だいたいそろっています。	必要だと感じますが、十分にそろえることができていません。	いくつかはそろっていますが、親の都合を優先させてしまいます。	必要ものをそろえることがむずかしいです。

図3 「基本的生活に関する質問項目」(「チェックシート」より一部抜粋)



また、課題の進め方については、担当教師が受講生に対して表2のように提示し、口頭においても次の説明を加えた。「チェックシート」を、受講生の身の回りにいる子育て中の親1名(以下、「協力者」と表記する。)に個別に使ってもらい、その場に同席するか一緒に使うことで、使用感を調査する。具体的には、使用中・使用後の協力者の様子を観察するとともに、感想を協力者から聴き取り、それらを書き留める。さらに、協力者との活動を通して、受講生自身が発見したことについても振り返り、文章化する。

協力者については、担当教師より「学生1名につき、現在子育て中の人1名から協力を得ること。きょうだい、いとこ、友人、近所の人などで、これに該当する人がいないか探すこと。どうしても周囲に見つけれない場合は、自身の親でも可とする。各自で、課題の内容を協力者に説明し、協力への依頼を行うこと。」との説明が行われた。一連の活動の結果については、レポートにまとめ、後日課題の成果物として提出するよう担当教師が指示した。

表2 課題の進め方を記載した受講生への配布資料

<p>2012年度「保育相談支援」／2013年度「社会的養護」課題</p> <p>①一緒に親御さんとシートを使う。</p> <p>あなたの知り合いの方（きょうだい、いとこ、近所の人、バイト先の知人等）で、子どもさんの親御さん（お母さん、お父さん）に子どもが心配チェックシートを使って、ご自身の子育てをふりかえっていただけてください。可能ならば、一緒につけてください。（一次チェック表および二次チェック表）</p> <p>②親御さんの使用感を尋ねる。</p> <p>その後、このシートを使ってみての感想（なんでもよい）を教えてください。</p> <p>③この活動をして、あなたが発見したことは何ですか。</p> <hr/> <p>&lt;レポートの記載事項&gt;</p> <p>①協力して下さった親御さんとあなたとの関係</p> <p>②親御さんの意見・感想（レポートには、点数は記載しないでください。）</p> <p>③あなたの発見</p> <p>・以上について報告してください。A4用紙1枚程度に、番号・氏名を明記の上、提出。</p> <p>・〇〇年 ▽月 ×日 締切</p>
--

## （2）受講生からのレポート結果

「チェックシート」を用いた課題を終え、受講生から提出されたレポートの結果について、①協力者について、②協力者の感想・意見、③受講生の発見の三点から述べる。

### ①協力者について

受講生が課題に取り組むにあたって協力を得た子育て

中の人々は、表3のとおりである。協力者として最も多かったのは、受講生自身の母親であった。次いで、おば、地域の人、いとこの順に多くなっている。母親やおばを含めた自身の親族に協力してもらった受講生が全体の3分の2以上であったが、一方で、近隣住民や地域活動で知り合った人、アルバイト先の知人や高校時代の同級生など、知人や友人に依頼し協力を得た受講生も見られた。

表 3 課題への協力者

親 族 (54)		知人・友人 (21)	
・母親 (22)	・義姉 (3)	・地域の人 (9)	・友人の母親 (2)
・おば (15)	・おじ (2)	・アルバイト先の知人 (4)	・友人の姉 (1)
・いとこ (7)	・父親 (1)	・友人 (4)	・母親の友人 (1)
・姉 (3)	・祖母 (1)		

\*受講生からのレポートをもとに作成 (数字は人数を表す)

## ②協力者の感想・意見

自身の子育てについて、スケールを用いることで「客観的に評価することができた」「子育てを振り返る良いきっかけを持つことができた」という感想が、ほぼすべての協力者から見られた。チェックの結果、自分の子育てについて、できていること(十分なこと)やできていないこと(不十分なこと)がはっきりと見えてきたことにより、どのような感想や意見を持ったかは、協力者によってさまざまであった。これらを分類すると、「前向きな

感想・意見」「肯定・安心」「不安・恐れ」「否定的な感想・意見」の4つのカテゴリに分けることができた。具体的な感想・意見は、表4の通りである。概ね、これからの子育てについて前向きな感想や意見を持ったり、自身の子育てについて肯定的な反応を示したりする親がほとんどであった。一方、少数派ではあるが、「振り返りができたこと自体は良かった」としながらも、チェックを通して不安を呈したり、チェックシートそのものに対して否定的な反応を示したりする親もみられた。

表 4 チェックを終えた協力者の反応

カテゴリ	協力者からの感想・意見の抜粋
前向きな感想・意見	「これからはもっとこうしてみよう」「大事なことを思い出せた」「できていないところをどうしていけばよいか考える事ができた」
肯定・安心	「結構できていると嬉しかった」「安心した」「自信になった」
不安・恐れ	「チェックを付けながら落ち込んだ」「これから先も自分の子育てでいいのか、少し怖くなった」「できていないことが多いと、ダメ親のレッテルを貼られているように感じる」「ウソでもD/Eは付けづらい」
否定的な感想・意見	「実際にできている人は少ないと思う」「全体的に理想が高いと思う」「時間がかかって大変」「このチェック表どおりにはできない」「すべてをこのようにしないといけないわけではない」

\*受講生からのレポートをもとに作成

## ③受講生の発見

受講生自身が課題を通して発見したことについては、  
i 協力者との活動からの発見、ii 「チェックシート」に対する評価、iii 「チェックシート」活用のアイデア、iv 養育や養育支援への思いの4点に整理し、レポートの記述を抜粋して以下に記す。

## i 協力者との活動からの発見

協力者とともに一連の活動を行う中で、協力者が不安や悩みを抱えながら子育てに真剣に向き合う姿勢を、受講生は捉えたようである。たとえば、以下の記述からそのことが読み取れる。

「その姿を見て、真剣に協力してくれていると思うとともに、子どものことをしっかりと思っているんだなと思いました」

「このチェックシートは成績表のようにも見えてAがないと、不安に感じてしまうようでした」

「実際にやってもらった方の場合、『不安になった』『これから大丈夫か』という気持ちを抱いていて、子育てを否定されたとまではいかななくても、マイナスの方向にとらえられる方もいらっしゃるんだなと思いました」

「どの人も子育てに対する不安や心配はあり、自分の子育てが正しいのか、どこかで答えみたいのを求めている心があるように感じました」

また、自身の母親に課題への協力を依頼した受講生は、「母が子育てをすごく努力して行っていたことを改めて感じ、いい機会になった」「恵まれた環境で、愛情いっぱい育てられ、幸せだと思った」と記していた。自身の育ちを振り返ることができ、親や環境に対する感謝の気持ちを持つことができたと言っていた。

## ii 「チェックシート」に対する評価

チェックシートそのものに対する意見や感想については、「授業で初めてパンフレットの存在を知り、実物を目にした」という受講生や、岡山県においてこのような取り組みが行われていることに驚きを感じたという受講生も見られ、関心をもって捉えている様子が読み取れた。受講生が捉えたチェックシートの特長は、以下のように記述されている。

「子どもの目線に立ち、子どもの思いを代弁し、親に伝えているもののように感じました」

「親が真剣に子どもと向き合えるツール」

「記入していくうちに、子どもの育ちに大切なポイントが分かるようになっていく」

「普段の子育てを項目に沿って、項目ごとに関連づけながら思い返せるので良いと感じました」

「評価の基準があると、自分で振り返ることもできるし、高い評価のところは自信を持つことができ、少し低い評価のところは見直す良いきっかけになる」

「今、子どもの育ちにとって何が大切なのかが見えやすくなり、具体的な目標を決めることができる」

「チェックシートは至らない点を反省し、改善することまでできれば、子どものニーズももちろん満たされますが、親御さんにとってもとてもいい勉強になるし、子育てが楽しくなってくるのではないかと思います」

「挿絵や色使いがとても可愛く、チェックシートとしてはとっつきやすいし、少ないページ数で気軽にチェック

することができる」

「このチェックシートは何回でも繰り返し行うことができるので、兄弟がいる場合や、子どもが大きくなったときに、昔の自分と比較ができ…(中略)…よりよい子育てができるのではないかな」

「自分の子育てについて客観的に知ることが出来るので、専門家に相談するきっかけになる」

「どのように日頃子どもと接しているか、普段様子が見れなくてもチェックをしてもらいながら聞くことができるので協力してもらおう側も、親の悩みや子どもの様子が伺え、とても助かるものだった」

## iii 「チェックシート」活用のアイデア

また、チェックシートをより効果的に活用するための提案が、次のようになされている。

「子どもがそばにいて第三者が使った感想を聞いてみることでそのやりとりをきっかけに親と子どもの会話や関わりが生まれることもある」

「このチェックシートを家族で話し合いながら行えば、子どものことを一緒に考え、子どもの状態や自分たちの状況を共有することができるよいきっかけになる」

「せつかくのチェックシートが生きるように、もっと一般家庭に普及していったらいいと思うし、地域で子育て家庭がお互いに支え合える場が広がっていったらいいと思う」

「保育所等に来る保護者の方に向けてなど、様々な機会ですし冊子を配布してより多くの子育て家庭に利用されてほしい」

「保護者がどのようなことに配慮して保育をしているか、理解してもらうきっかけになるかもしれない」

「このチェックシートは誰かと一緒に行い、普段の子育てについて質問をし合いながら進めていく方が、保護者の方は謙遜をすることなく、チェックをしていくことができると思いました」

「そのあとのケアが大切で、自分の親だったり、近所の専門機関や保育士だったり、そういう自分以外の誰かと悩みを共有して、不安を解消していくことが子育て支援、子どもの育ちを支援することにつながっていくのかなと思いました」

「このシートを通して誰かに子育ての相談をしたいと感

じたり、子どもに対する心配が生まれたりした親御さんのために、誰に、どこに相談するべきかをより具体的に明記してもらえると、このシートの効果で子育てが改善される機会がぐっと増えるのではないかと思います」

「具体的な相談機関の名前や電話番号、ホームページのURL等が記載されていれば、不安解消のためにすぐに行動を起こす親御さんが増えるのでは」

「別冊として、改善のためのアドバイスをまとめたものを一緒に配布したり、冊子に具体的な相談窓口名と連絡先を明記した方が、改善につながるのではないかと考えた」

#### iv 養育や養育支援への思い

協力者との活動を通して、養育とはどのような仕事なのかということについて、受講生は様々なことを考えさせられたようである。例えば、以下の記述が見られる。

「子どもは自ら育つ力を持っている。そして、その力を親がどう引き出していくかが大切だと感じた」

「子どもを育てるということは、子どものニーズを満たすため、『子どもを第一において考える』という子ども主体の考え方に変えていかなければいけないと感じました」

「子どもの態度や言動で子どもの気持ちを感じ、それに対応した子どものニーズを満たすことはとても大変で共に生活していないと難しいということが分かった」

「子育てはとても難しく、大変そうですが、やりがいのあるものなんだろうなと思いました」

「お母さん任せにするのではなく、夫婦そろって考えることが子どもにとってよい育児」

「子育ては夫婦2人だけでできるものではないということを改めて感じた」

「自分ひとりで何事も行うのではなく、家族や、地域の人と協力し、子どものニーズを満たしていくことが大切だと感じた」

「近所付き合いの大切さを改めて感じました」

また、将来における自身の養育に思いを馳せた記述が、以下のように見られた。

「本当に幼いころからたくさんの家族が集まっていたので、自分が子育てするときも自分の育った環境に近いところで子どもの成長を見たいと思いました」

「自分が子育てする際にもこのような冊子を活用してみたい」

「自分の子育てを見直し、子どものためによりよい子育てができるようになればいいなと思いました」

さらには、児童福祉専門職の視点から、養育支援への思いや今後の取り組み姿勢について、以下のように記述していた。

「子どもの育ちに関わる保育者は、その子ども本人の支援のみに限らず、その保護者、家族全体の支援をすることが必要であることを学びました」

「子どもにとっても、保護者にとっても信頼のできる保育者として、少しでも支えになればいいなと思いました」

「このチェックシートのように少しでも解決できるような材料の存在があることで虐待やネグレクト等の行為が減っていくのではないかと思います」

「自分が今、学べるチャンスの中に行かせてもらっていることを改めてありがたいと感じ、同時にもっと真剣に進んで学んでいかなければいけないと思いました」

## 4. 考 察

以上の教育実践事例を踏まえ、①当事者とともに進める学習の効果、②学習を通してもたらされた受講生の前向きな変化について振り返る。さらに、本事例から見えてくる児童福祉政策・実践課程への青年の参加の重要性について述べる。

### (1) 当事者とともに進める学習の効果

本事例において、課題設定については教師が行ったが、重要なことは、養育の当事者である協力者との協働作業を通じて受講生が発見したことであつた。

まず、課題への協力者探しと依頼については、自身の母親に依頼した受講生が最多であつたことは前述の通りである。その理由は、「周りに子育てをしておられる方がいらっしゃらないので」「大学生であり一人暮らしをしているので、身近に子育てをしている知り合いがいなく、母に協力してもらった」などと記述されており、現代の青年を取り巻く環境が見て取れる。また、協力者にとっては一定の時間と労力を要する活動であるため、課題へ「協力してくださった方がいたことに感謝です」と述べる受講生も見られた。



また、受講生は、養育の当事者である協力者との活動の中から様々なことを発見し、養育について実感を伴って理解していった。本事例において活用した「チェックシート」は、親しみやすくデザインされた一定の尺度を用いることにより、親自身が養育について振り返ることのできるツールである。子どもと親や両親同士、その他の家族、支援者と一緒に、よりよい子どもの育ちについて考え、話し合い、実践していくためのツールとして、受講生は理解を深めた。

本教育実践のプロセスにおいて、受講生は、①「チェックシート」の目的や内容を講義を通して理解し、②協力者を探し出し、③課題について協力者へ説明し、④協力者とともに「チェックシート」を活用し、⑤活動の成果をレポートにまとめるという段階的な学習を行っていた。これらプロセスのうち、核となる②～④の活動について、養育の当事者である協力者とともに行ったことが、受講生にとって重要な気づきをもたらしたのではないだろうか。

## （２）学習を通してもたらされた受講生の前向きな変化

協力者との活動から発見したことを踏まえ、養育とは「子どもの主体性を大事にしながら、地域の中で両親が協力して子どものニーズを満たしていく仕事」であると、受講生は理解したようである。この考え方は、子どもを権利の主体者と捉え、一人ひとりの子どもの発達の可能性を最大限に引き出し、子どもの現在及び将来の暮らしを豊かにするという、21世紀の児童観を踏まえたものである。こうした子ども中心の養育を、自身が将来実践していきたいという思いと、専門職として子ども・親・地域への支援を行っていきたいという思いが、レポートの記述から読み取ることができた。さらには、そのことを可能とするために、養育への学びをさらに深めていきたいという受講生の意欲が高まっていると、評価できるのではないだろうか。

## （３）児童福祉政策・実践過程への青年の参加の重要性

受講生は、協力者との活動を通して、「チェックシート」の活用に関する豊富なアイデアを持っていた。それらを分類すると、①支援における子どもの参加を促すための活用法、②地域の子育て家族への効果的活用法、③子育

て家族と支援者との協働における活用法、④「チェックシート」の改善点と具体的提案であったと理解できる。これらのことから、今後、子どもや子育て家族が活用できる支援ツールを開発する際には、若い世代のメンバーの協力を得ることも重要ではないかと考える。利用者にとって役立つ資源開発と情報発信をしていく際、作成過程への当事者参加を抜きには、それらは実現できないのではないだろうか。児童福祉のみならず、子どもや養育に関する領域の場合には、とりわけ子どもや親、青年の参加が、効果的实践及び政策を生み出す鍵となると思われる。

一方、青年にとっても、自分の意見や活動が社会の中で役立てられているという実感を持つ経験は重要である。社会貢献の意義を、実体験を伴って理解していく中で、市民としての感覚が養われていくのではないだろうか。そうした機会を持つことは、青年期における重要なニーズの一つであると理解し、教育者自身も、学生主体の教育を実践していく必要があると考える。学生が当事者と一緒に活動をする中で、学生が重要なことを再認識したり新たな発見をしたりしたことが社会に還元され、より良いサービスの構築につながる。こうした教育を、社会福祉教育において、今後より一層実践していくことが求められているのではないだろうか。

## こ れ か ら

養育に関する教育実践事例の検討を通して、学生にとっての意義を考えてきた。今後の課題としては、①政策におけるフィードバックと、②教育におけるフィードバックとの二点が挙げられる。前者は、学生が発見したことを政策にどのようにフィードバックし、政策に学生の発見が反映されたことをどのように学生にフィードバックしていくかということである。後者は、学生が発見したことをまとめ、学生自身に還元することで、教育者の立場からフィードバックすることである。これらの点については、実践現場と大学で協働を進め、今後の取り組み課題としたい。

若い世代のもつ可能性を信じて、彼らの力が社会において発揮される状況を整えていくことが、教育者に求められる役割であると捉えている。青年自身が主体的に学

ぶことが大切であり、青年の参加を推進する力を、私たち教育者は高めていかねばならないと考える。青年との協働は、常に新しい発見を伴う、創造的活動ゆえの面白さがあると感じる。今後も、児童福祉専門職を目指す学生を含めた青年たちとともに、児童福祉に関する学びを進めていきたい。

## 謝 辞

本教育実践を進めるにあたり、ご協力くださいましたすべての親御さん、学習を通した貴重な発見を伝えてくださった受講生の皆さんへ、深く感謝申し上げます。

## 参 考 文 献

- Daniel, Brigid, Wassell, Sally and Gilligan, Robbie (1999) “*Child Development for Child Care and Protection Workers*”, Jessica Kinsley Publishers
- Department of Health (2000) “*Assessing Children in Needs and their Families: Practice Guidance*”, The Stationery Office.
- 福知栄子・梅野潤子・薬師寺真・三宅尚美(2012)「子どもを中心としたニーズアセスメントを地域で実践するために-岡山県『子どものための総合情報アセスメントシステム』を事例として-」『中国学園紀要』11, 155-162.
- ジリアン・ビュー, エリカ・ディアス「第4章1980年代の親業」ウェンディ・スティントン・ロジャース, デニス・ヒーヴィー, エリザベス・アッシュ編著, 福知栄子・中野敏子・田澤あけみ他訳(1993)『児童虐待への挑戦』法律文化社.
- 南野忠晴(2011)『正しいパンツのたたみ方-新しい家庭科勉強法-』岩波書店.
- 中野敏子・福知栄子・梅野潤子・森山千佳子(2009)『こうしてみようあなたの支援-ふりかえる・しっかり考える・進む-』大揚社.
- Smith, Roger(2008) “*Social Work with Young People*”, Polity.
- 梅野潤子(2013)「中学生・高校生とともに児童福祉を学ぶ-体験授業の取り組みから子どもの参加について

考える-」『福祉おかやま』(岡山ソーシャルワーカー協会機関誌)30, 20-25.

## 註

<sup>1</sup> 子どもの育ちのニーズ(child's developmental needs)については、先行研究において様々な考え方が提示されている。例えば、中野ら(2009:40-14)は、英国保健省の指針(Department of Health 2000)を参考にしながら、「子どもの育ちのニーズ」は、すべての子どもが子ども期に満たされるべきニーズであり、大人から満たされて初めて子どもは徐々にニーズを自ら満たすようになると捉えている。ニーズは次の7項目示されている。①健康, ②教育, ③情緒と行動の発達, ④自分についての自覚, ⑤家族・社会との関係, ⑥社会・文化的自己表現, ⑦自分で生きる知恵と技術。

中野敏子・福知栄子・梅野潤子・森山千佳子(2009)『こうしてみようあなたの支援-ふりかえる・しっかり考える・進む-』大揚社, 40-41.

<sup>2</sup> ‘Chapter3 Parenting’, Daniel, Brigid, Wassell, Sally and Gilligan, Robbie(1999) “*Child Development for Child Care and Protection Workers*”, Jessica Kinsley Publishers, 39-58.

<sup>3</sup> 高等学校の家庭科教師である南野(2011)は、生徒との会話を通じ、生徒たちの日常生活の実態について理解を深める中で、学習意欲の低さや情緒の不安定さなどは「心の問題ではなく、生活の問題」(p. v)であることに気付いたと述べている。また、「教える側に『授業は生徒とともに作っていくものだ』という意識が必要なのだ」(p. 47)と再確認したと振り返っている。

<sup>4</sup> ジリアン・ビュー, エリカ・ディアス (1993), 51.

<sup>5</sup> 『『子どもが心配』チェックシート』(パンフレット版)は、岡山県が作成したアセスメントツールであり、ウェブサイトから誰でも無料でダウンロード、利用することができる。

岡山県公式ウェブサイト「『子どもが心配』チェックシート(パンフレット版)ができました！」(<http://www.pref.okayama.jp/page/detail-100389.html>)

なお、「チェックシート」開発の経緯については、福ら(2012)に詳しい。